

# 総務省地域情報化アドバイザー優良事業事例

## 優良事業事例団体

団体名：島根県安来市

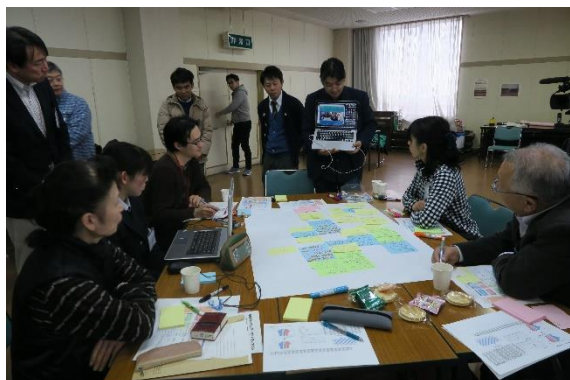
- 人口 : 38,902人(平成31年1月31日現在)
- 面積 : 420.93平方キロメートル
- 主な産業 : 鉄鋼業、農業、林業
- 地域情報化アドバイザー名 : 遠藤 守
- 派遣対応年度 : 平成29年度
- 派遣回数 : 1回
- 支援形態 : 個別アドバイス
- 支援分野 : オープンデータ

## 優良事業概要

- 事業名：安来市オープンデータアイディアソン
- 事業の概要：安来市総合計画の重点戦略である「安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の4つ基本目標「結婚・出産子育ての支援」「雇用の創出」「住環境の向上」「地域の形成」をテーマとしてグループに分かれてデータを利活用を想定したワークショップを行った。
- 依頼内容：アイディアソンを実施することにより、オープンデータの必要性、重要性、地域活性化について、市民をはじめ、職員、関係者ともに理解を深めたい。また、安来市の政策についての課題についても洗い出しを行い、オープンデータを使った解決策を模索するための、ファシリテータを依頼した。

## 地域情報化アドバイザーから受けた支援内容

- 支援を受けた内容：講師よりワークショップの中で、「オープンデータとは何か」についての説明や、ファシリテートについて協力頂き、スムーズな進行について協力を頂いた。また、講師の幅広い人脈を生かし、インターネットのビデオ通話機能を利用し、オープンデータに精通されている外部の講師に繋ぎ、議論のアドバイスや、講評についてもご協力いただいた。ワークショップの中で「このようなオープンデータがあったらいい」「このオープンデータがあったらこんなアプリができると思う」などの議論もあり、内容についても白熱した議論となった。今回のワークショップを通じて、オープンデータの意義や市民周知が図れた。



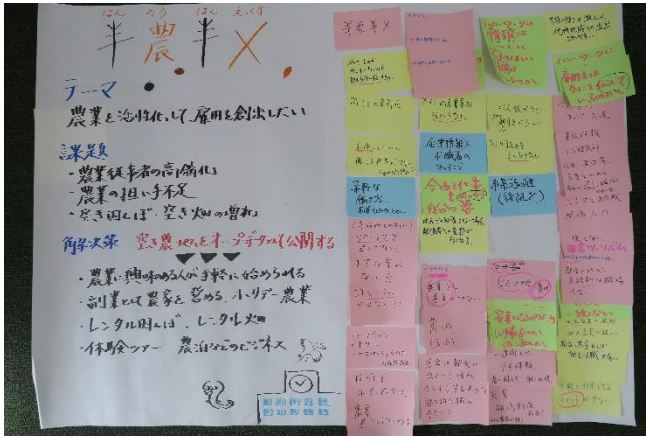
アドバイザーの人脈を活かし、有識者によるビデオ通話によるアドバイス



議論の様子

## 支援を受けた事業の最新状況

■平成28年度より安来市としてオープンデータ推進事業を実施しているものの、オープンデータの意義や、活用例はあまり知られていなかったが、住民、地元高校生、ITベンダーの方の参加もあり、広く多くの方に知って頂ける機会となった。このワークショップを行ったことにより、オープンデータの機運が高まり、code for yasugiが結成されており、現在データを使った地域課題の解決策について、話し合いが行われている。



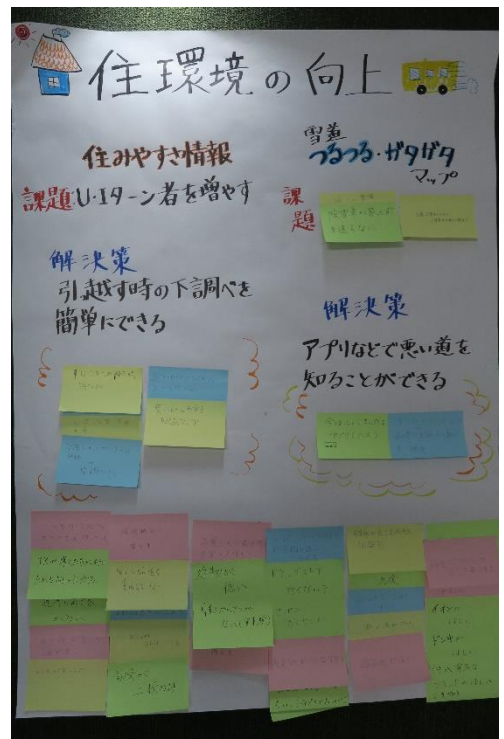
当日の成果:雇用の創出

### ■課題

農業従事者の高齢化、担い手不足、空き農地の増加

### ■解決策

空き農地をオープンデータ化し、レンタル田畑、体験ツアーや半農半Xにて農業従事者を増やす。



当日の成果:住環境の向上

### ■課題

- ①IU ターン者が少ない
- ②交通が不便、除雪されない

### ■解決策

- ①市の補助金一覧データ、居住地域の評価データを知るアプリを作成する。
- ②凍結情報、バスの位置情報をデータ化し、道路状況、バスの位置が把握できるアプリを作成する。

## 地域情報化アドバイザー制度を知るきっかけ

■オープンデータを導入した平成28年度当時の課長が、以前情報政策部門の課長であったことと、情報政策部門より地域情報化アドバイザーについて庁内共有システムにより制度周知もあり、申請をさせていただきました。

## 地域情報化アドバイザー制度に関する評価・感想

■評価・感想 :地域情報化アドバイザー制度により、名古屋大学遠藤守氏をアドバイザーとして派遣頂き、市民の方や地元高校生を対象に、オープンデータの意義について説明、及び安来市の取組について市民の方へご理解いただけたいと思います。

開催当時は、予算化もしていなかったため、この地域情報化アドバイザー制度があったことにより、イベント開催が企画できました。

今後においても、この地域情報化制度を活用させていただき、当市の地域情報化の向上につなげていきたいと考えます。